

こんなにあるのかカルテ・レセプト開示拒否

## 阪南中央病院での取り組み

2013年7月1日  
 阪南中央病院 医療安全管理部  
 患者情報室「とまり木」  
 北田淳子

## 阪南中央病院の概要

病床数 235床 (6病棟)  
 内科・外科・整形外科・眼科  
 産婦人科・小児科・皮膚科  
 MFICU・NICU

看護配置 7対1入院基本料  
 平均在院日数 2012年度 (9.7日)

## ALS (筋委縮性側索硬化症) 発症～事故に至るまで

1999年 ALS発症  
 運動神経が侵される進行性の神経難病

2001年 人工呼吸器装着  
 呼吸困難を起こし、緊急入院  
 声を失う

2003年 胃瘻造設  
 食べる楽しみも奪われる

2004年 胃瘻のボタン交換のため入院  
 人工呼吸器のガイド・ドライプラインが外れる事故が起こり、  
 無酸素状態に。意識はもどることなく2か月後に亡くなる。

昨日できていた事が  
 次の日には出来なくなる  
 不安を抱えながらの  
 毎日の生活

阪南中央病院のスタッフを中心に  
 支えながら約3年間在宅生活を送る

## 何故、病院を責めなかったのか

事故直後の家族の思い 病院 (当事者) からの謝罪

帰るんじゃなかった  
 自責の念

いったい何が起ったの?  
 知りたい

そんな時

事故に対しては許すことは出来ない。でも「正直に被害者家族に向き合う」という病院の姿勢は、私たち家族の気持ちを怒りに変えず、前を向いて次に進ませてくれた。

事故被害者の一番の願い

## 当該病院の職員に！

事故から1年後、病院から職員への誘いが・・・

<病院からの言葉>


1. 被害者家族が病院に入ること、職員が安全意識を持ち続ける
2. 家族の今後を見守っていきたい
3. 職員になりきらず、患者の視点で病院へ

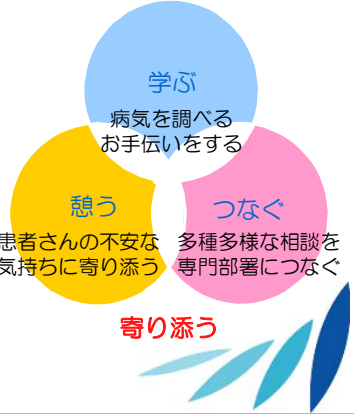
↓

病院は真剣に医療安全を考えているんだと職員になる決心を

**2006年5月 患者情報室「とまり木」を開室**  
患者さんが気軽に相談できる場所として設置

## 患者情報室「とまり木」 2006年5月15日開室





## カルテ開示の方法

**申請型カルテ開示**

↓

患者の申請に従って  
カルテ開示を行なう方法

**配布型カルテ開示**

↓

カルテを患者のもとに配布、閲覧を患者の意思に任せる方法  
(配布中の管理責任は患者自身となるため、当院では入院時に配布についての希望を聞く)

## 配布型カルテ開示への取り組み

- 2001年 5月 平成13年度 日本看護協会通常総会  
シンポジウム 「看護記録と情報開示」で存在を知る  
(みなと医療生活共同組合 協立総合病院)
- 2001年 7月 協立総合病院(名古屋) 見学
- 2002年 3月 診療情報管理室設置
- 2002年 9月 東5階病棟(小児科)にて開始
  - ・経過用紙に医師が毎日記録していた
  - ・配布する対象が説明の対象と一致している
- 2006年 4月 医療安全管理委員会方針に挙げる
- 2006年10月 講演会(協立総合病院 原院長)
- 2007年 1月 全科において配布開始

## 配布型カルテ開示の目的

個人情報のコントロール権の保障

(患者情報の患者によるチェック)

インフォームドコンセントの促進の一助

(診療過程のリアルタイムな情報提供)

診療に対する患者の積極的な参加

(医療従事者と患者の情報の共有)

協立総合病院 原院長 講演録引用

**信頼関係の向上および医療の安全確保**

## 医療安全管理委員会2006年度方針

1. マニュアル等の見直し改訂
2. 職場における安全管理点検活動の日常化
3. 新聞事故報道、院内事故報告の有効活用
4. 医療安全管理委員会事務局体制の強化による安全管理活動の活性化

## 5. 患者参加による医療安全推進

「配布型カルテ開示」の全科への導入

## 診療情報の提供、開示および、 個人情報保護に関する法的根拠

インフォームドコンセントと医師の説明義務  
診療情報の提供等に関する指針

(厚生労働省・医政局長通達2003年9月)

個人情報保護に関する法律(2003年5月)

厚生労働省のガイドライン(2004年12月)

※これらに関連した院内規程に基づき、

「診療情報の提供と配布型診療録等開示の基本指針」

「入院カルテの配布に関する運用施行細則」を作成

## 阪南中央病院でのカルテ開示の意義

病名、病状の真実告知を原則に  
医療を行い、その上にたって、  
医療者と患者さまがより積極的に  
診療情報を共有し、納得していただ  
いたうえて治療を進める。



## 開示の範囲と危害情報の取り扱い

### 対象

- 患者本人もしくは患者の代理親権者
- 閲覧時間内は患者（代理親権者）が自己責任において閲覧者を決定できる

### 配布する診療記録等

- 入院カルテに綴じられている一切の文書

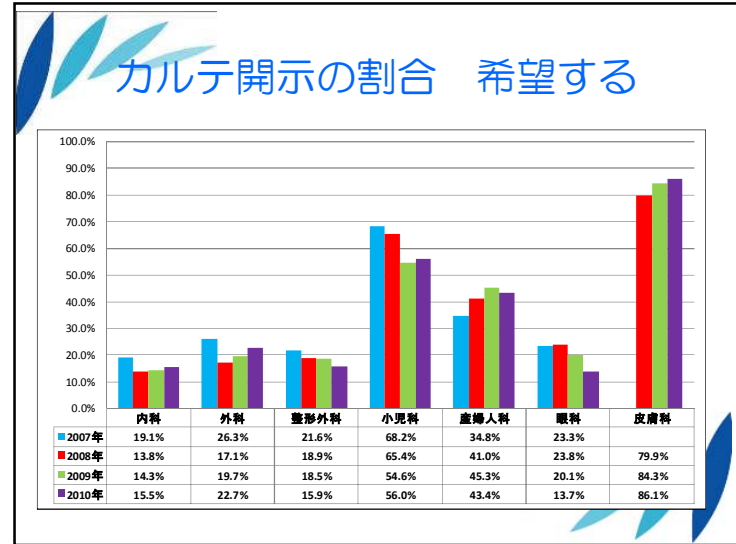
### 危害情報

- 患者本人の心身の状況を著しく損なうおそれのある記録（病名告知、予後情報、DNR指示書等）

### 第三者情報

- 第三者の利益を害するおそれのある情報

非開示とする

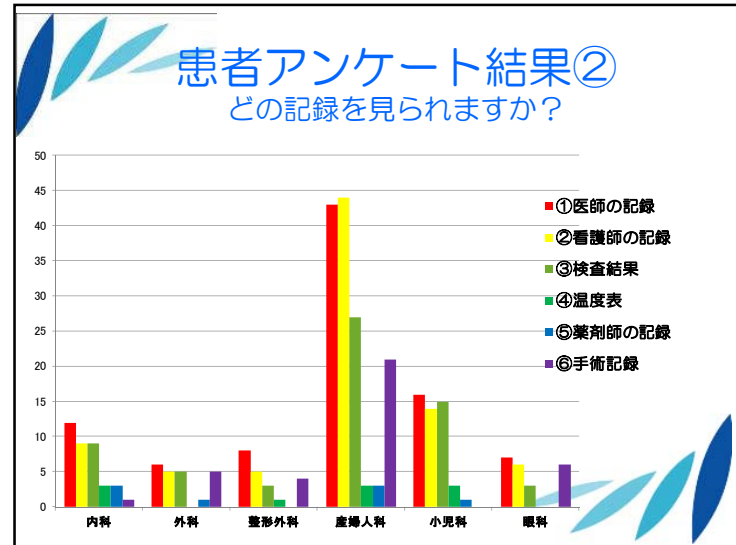


## 患者アンケート調査結果①

**調査期間**  
2007年11月

**調査対象**  
入院カルテを閲覧された患者さま

**回答数 総数124**  
内科⇒15 外科⇒11 整形外科⇒11  
産婦人科⇒59 小児科⇒18 眼科⇒10



### 患者アンケート調査結果③

#### カルテ開示で良かった点

- お産の経過や産後の経過を自分で確認できるから良い。
- 赤ちゃんの状態がわかって良かった。
- 検査データが確認出来る。
- 処置の内容、使われた薬剤を知ることが出来る。
- 医師や看護師がどんな事を観察しているのかわかる。
- 不安があるから自分の病気を見ておきたい

#### カルテ開示で困った点

- 医療用語がわからなかった。
- 血液検査の項目（アルファベット）
- 検査の要注意って何？
- 検査結果の見方がわかりにくい。

### 職員アンケート調査結果

#### 良かった点

- カルテが見やすくなった。
- 患者の目を意識した表現に心がけるようになった。
- 医療者側のカルテ記載や患者説明に対する意識が向上した。
- 不必要な記録が少なくなった。
- 看護記録を記入時は、誤字や表現により注意するようになった。

### カルテ配布を中止するケース

- ①カルテの管理  
認知症等、カルテの管理が困難と主治医が判断した場合
- ②告知の問題  
カルテを開示することにより治療が困難になると医師が判断した場合
- ③院内感染を防止するために  
ノロウイルス・インフルエンザ等の感染症流行期

患者さんとのトラブルは一切生じていない。

### 入院カルテ配布に関するご案内

入院カルテ配布に関するご案内と意思確認書

入院カルテ配布に関するご案内

入院カルテ配布に関するご案内

①希望する      ②希望しない

西暦 年 月 日 患者氏名 ( )

## 入院カルテ配布に関するご案内 (拡大版)

<2006年作成>

1. あなたは入院中に悪性の病気が見つかった場合、告知を希望されますか。
2. あなたは入院中に病気や検査結果について重要な説明を受ける際にどなたの同席を希望されますか。
3. あなたはカルテの配布を希望されますか。

<2012年12月改訂>

あなたは入院カルテの配布を希望されますか。

## 患者さんのご相談から

ご家族より

87歳女性（認知症）が体調を崩し入院。食べることが難しく、点滴も外してしまうことから胃瘻を造設することに。内視鏡で15分ほどで済むと聞いていたのに、胃壁を傷つけたと急遽開腹手術に。病院からは「不可抗力の事故でミスではない」との説明。納得いかない、医療ミスではないか。

↓

患者さんとして理解できない気持ちを尊重。インフォームドコンセントがきちんと出来ていないこと、今も母親に口から食べさせてあげたいという思いが強かった。

↓

病棟にご家族の思いを伝え、言語聴覚士の指導の下、ゼリーなど飲み込みやすいものを摂取。体調も良くなりご家族の表情も変わってきた。

「ミスかどうかの問題は今も納得していない。でも対応には誠意を感じた。」

その後定期的に通院し、「とまり木」に顔を出してくれている。

## 患者さんのご相談から

40代男性（母親から）

当院「けいれん外来」で長年てんかんの治療を受けてきた。後縦靭帯骨化症も発症し治療をしていきたい。2つの病気を専門に診てもらえる病院を探してもらえないか。

↓

「てんかんセンター」と「脊椎外科」のある病院を調べ、担当医に相談があったことを伝えることによって、後日紹介状を書いてもらい無事治療に繋がることが出来た。

背景には・・・

信頼しているだけに聞きづらい。  
一生懸命診ていただいている先生に申し訳ない  
⇒でも一度専門の先生には診てもらいたい。

間接的に情報を提供することで安心して治療にのぞめる

## 患者さんのご相談から

ご家族より

92歳の父が白内障と診断。高齢のため手術は出来ないとされた。父は全く耳が聞こえず片目もほとんど失明状態。今は反対の目で何とかコミュニケーションをとっているが、その目まで見えなくなると大変だし、本人も楽しみがなくなってしまう。

眼科より

↓

①手術の際にコミュニケーションがきちんととれるのか。  
②改善する可能性が低いのではないか。  
問題はあるが、次の受診までにいい方法を考えようと患者さんには伝えはしたが・・・（カルテにも記載）

患者さんが理解していなければインフォームドコンセントとはいえない。不信感に繋がり、生活への不安だけが残ってしまうだけ。

## 患者さんの意見から改善されたこと

診察を待っている時って、先生に聞きたいことを思い出したりするから、メモでもあればと思うんです

診察予約票

内科  
患者番号

氏名 \_\_\_\_\_ 種 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

予約日	時間	診察室

※当日の診察状況により、予約時間通りに受診して頂けない場合がございます。ご了承ください。  
予約時間変更は受付時間内（平日9時～17時）に電話にてご連絡ください。  
電話：07-335-3100 内科科長まで

【拡大したいことがありましたら下の欄にご記入ください】

医療科長印

伝えたいことがありましたら下の欄にご記入ください

拡大

## 予約票に記載された質問

- 急に胎動が減った。子宮口が前から柔らかいと言われているので心配。子宮頸管の長さや子宮口の具合を教えてください。（産婦人科）
- 数日前、白いおりものがありました。時々白い塊のようなおりものがあります。心配ないでしょうか。（産婦人科）
- 咳をすると尿漏れします。赤ちゃんが下がってきていないか心配です。しょうがありません。（産婦人科）
- 両足の指、甲に風呂の踏台が倒れました。打ち身だけだと思いますが、念のためレントゲンをお願いします。（整形外科）
- 2週間ほど前から両手の平が熱く、熱感があるようです。最近腰痛がひどくなったようで横になる時間が長くなりました。（整形外科）
- 左右のふくらはぎに傷があり膿が出ています。外傷に対する処置は整形外科で受けていますが、糖尿病の関係で内科的には影響ないでしょうか。（内科）
- 今飲んでいる薬は私に合っているのでしょうか。最近体が痒く、湿疹も出ています。（外科）